

今日はみなさんの「ハレの日」卒業式です。廿四十九回目の卒業式。もう少しで一万人になろうかという姫島小学校の卒業生。歴史と伝統を感じます。今日からみなさんもその一員です。

本當は卒業証書一枚一枚を美しい文字で手書きであれば素敵なのですが、それはできないので、おぬどといつもい気持ちを込めて一枚一枚に印を押しました。そして準備した卒業証書を、みなさん一人一人の顔みて手渡しました。そもそも思いがこみあげてきて、胸が熱くなりました。

田の日に暖かさを増して桜の花が咲き誇る季節はもうあぐです。また、三年間さまざま我慢を強いた新型コロナの扱いが変わり、新年度は、今年度よりもさらに、本来の伸び伸びとした学校生活を取り戻せそうです。そもそも意味で、新しいスタートの季節である「春」の訪れを感じます。「春」の訪れとともに卒業生のみなさんこれからに思いを馳せられることができてよかったです。

みなさんの小学校生活は入学式から始まりました。小さくて可愛らしく、頼りなげで守ってあげたい子どもたち。きっとそれがみなさんの当時の姿であったことと思います。そこから六年後の今日のみなさんの姿。いつの間にこんなに大きくなつたのでしょうか。背丈は伸び、表情は少し大人びて、たくさんので

わなかつたにじがでれぬみつになり、たくさんのわからなかつたことがわかるようになつた。支えられたばかりだったのに、この間にか人を支えられたのができぬようになつうとしている。成長するところは、とても素敵なことだと思ふま。

その六年間の成長に心の中で大きな拍手を送るといい、あらためて卒業生のみなさんに伝えたいと思ふま。卒業おめでとり。みなさんのこれからが歴史です。たくさんの希望がみなさんをお待ち致し、たくさんの幸福をみなさんが手にしてこなすあります。

そして、卒業にあたりみなさんに、中学校生活であるいはこれからの人生で忘れないにこつけ、「一つの気持ち」について話をしたことを思ふます。この「一つの気持ち」の話は、実は、一年前の卒業式でした話と同じです。姫島小学校を卒立つてくみなさんへ、この皆さん伝えたいことなどだらつと書いた末に、やはり今年も、難しこそ言葉ではなく、誰もがよく知つてこぬ言葉だけれど奥深く「一つの気持ち」につき、話をせんかしむつひとつにしました。

忘れずにいてほしい一つの気持ち。それは「愛」です。「愛」って、どうこの気持ちだと想ふまか。

「愛」というのは、簡単にいって「大切に思つ気持ち」です。自分に関わる人やものなど、例えば、家族や友達、チームや学校などを、大切に思い大事にする。それが「愛」です。「優しさ」と言い換えることもできる。そんな気持ちをいつもたぐさんもつている人は、きっと、そのお返しとして、自分に関わる人やものごとから大切に思われ大事にされます。身のまわりに温かな結びつきがあふれて幸せになると思います。

忘れずにいてほしい一つめの気持ち。それは「感謝」です。「感謝」というのは、「自分一人で生きていくわけではないとわかる」と「だと思います。たぐさんの人やもの」とに支えられ、人は生きていいくことができる。たぐさんの人やものに支えられ、人は成長することもできる。そのようにわかるけど、だと思います。そして、自分を支えてくれる人やもの「」と、心から「ありがとうございます」と言える。そんな気持ちが「感謝」です。

卒業生のみなさんには、いつも「感謝」を忘れない人になつてほしいです。そういう人は、きっと、誰かをしつかりと支える人もあるはずです。

「愛」と「感謝」を忘れない人。とても素敵な人だと思います。中学生になつても、将来、大人になつても、ぜひ、みなさん

「はなつこい人であつてほしいです。

日本でも世界でも、暗い気持ちになるたぐんなでやが
毎日のよひにおやこむせの中です。「愛」と「感謝」を忘れない
人。そんな人が日本でも世界でもあらねるよにになれば、や
つと、明るく気持ちになれるやがすむあらねつゝやがす。

最後になつましだが、保護者の皆様、本日は、お子様の「卒
業おぬでとりやがすます。お子様の大さく成長された姿を「見
になり、大きな喜びと感動で胸をいっぱいにされていのでは
ないでしょうか。心よりお祝い申しあげます。あわせて、これ
まで六年間の学校に対する温かい理解とい協力に、厚くお礼
を申しあげます。中学生となるお子様に「感いを感じる時ある
かもしさせんが、せひ、変わらぬ愛情とつかず離れさせ
よい距離感で、やうなるお子様の成長を見守つてください。
それでは、みなさまの幸福を願つて、卒業式の弔辞とさせて
いただきます。

令和五年三月十七日

大阪市立姫島小学校 校長 吉田健太